

維持更新需要増大下での既存ストックの有効活用等効率的な
国土基盤の整備・管理に関する現状と課題（論点）

< 主な資料のポイント >

- 1．維持管理・更新の動向
- 2．既存ストックの分野横断的な有効活用
- 3．PFIの導入等効率的な国土基盤の整備・管理の動向

- ・ 耐用年数が経過したストックは全て直ちに更新されるものと仮定して計算すると、2020年以降急激に更新費が増加し、新規投資が厳しい制約を受ける事が予想される。
- ・ 分野別にみると、比較的耐用年数の短い文教分野、生活分野での更新費増大が最初に顕在化する。
- ・ 比較的耐用年数の長い交通分野等においても、更新時期を迎える2020年代に更新費が増大し、2030年以降、更新費の割合が大きくなり、新規投資が厳しい制約を受けることとなる。
- ・ 社会資本の整備・更新に際しては、少子高齢化に伴う若年齢層の減少、高齢者の増加を見込んだ対応が必要である。
- ・ 新規投資の制約を考慮し、適切な維持管理によるストックの耐用年数の延長やライフサイクルコストの縮減を図る必要がある。

< 主な論点 >

- ・ 増大する既存ストックに対応した効率的なメンテナンス手法について
- ・ 既存ストックの柔軟な用途変換等効率的な有効活用方策について
- ・ 新規投資等におけるPFIの導入等、新たな国土基盤整備のあり方について